

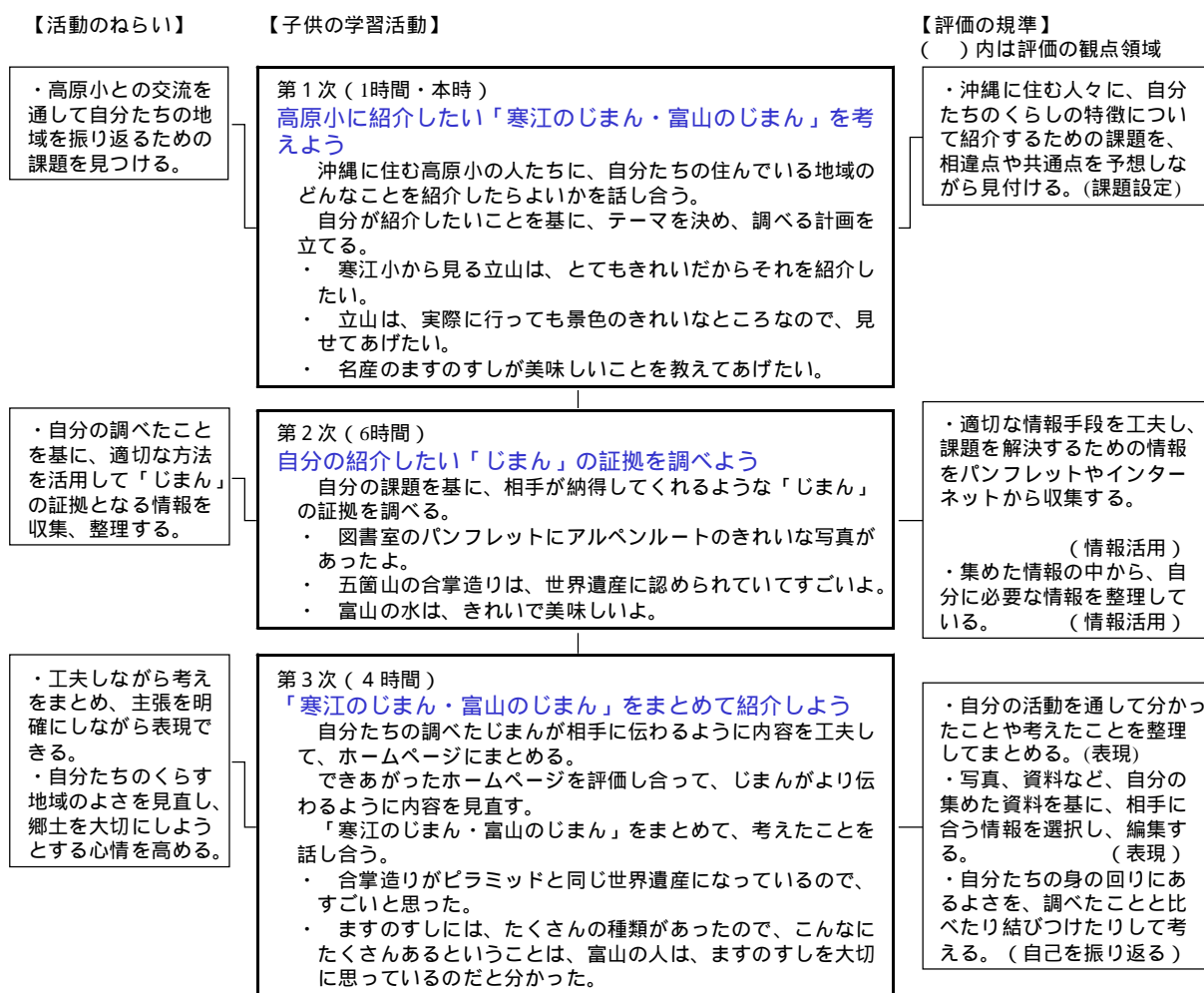
(1) 中学年における総合的な学習の時間のカリキュラム編製の留意点

小学校中学年の2年間は、総合的な学習の初期指導期と位置付けることができる。従って、この時期には、さまざまな学習活動を共通体験することによって、「課題を見付け、解決していく」という総合的な学習の時間における一連の学習の流れを、モデルとして身に付けることが大切になると考えた。

その際の学習テーマとしては、自分たちの住む地域と他地域とを比較しながら、自分たちのくらしの特色に気付いたり、他地域との違いに気付いたりできることが望ましいと考えた。また、教科学習との関連からも、寒江から、市域、県域へと目を広げていけるような内容であることが望ましいことだと考えた。

(2) 平成16年度寒江小学校第4学年の総合的な学習の実践

【第1学期】「寒江のここがじまん・富山のここがじまん」



本単元では、沖縄県高原小学校との交流を通して、高原小の人たちから寄せられた質問に答える形で、寒江や富山のよさを紹介する学習を進めた。「沖縄の小学校に紹介する」という視点を持つことによって、より意欲的に追究を進めることができた。また、発信の対象が明確になることによって、それが寒江や富山を紹介するのにふさわしいテーマなのか、その内容で相手に寒江や富山のよさが伝わるのかといった、自分の取組みに対する見直しへとつながった。

【第2、3学期】「ぼくらの町のバリアフリー」

本単元では、シニアシミュレーション体験等、体の不自由な人々が生活する際にどのような苦勞を抱えているかを実感を通して理解した。その上で、「寒江の町は体の不自由な人にとって暮らし

やすいか」をテーマに、どのような工夫があるかを予想して調べた。コミュニティバスや横断歩道工事など、地域内でもバリアフリー化が進んでいることや、高齢者や身障者が暮らしやすい社会を作るために、たくさんの人がさまざまな工夫をしていることに気付くことができた。

【子供の学習活動】

第1次（6時間）
体の不自由な人の暮らしを考えよう
 ・体に重しをつけて老人の暮らしの体験をする。
 ・車椅子による歩行体験を行う。
 ・目隠しをして校内を歩行する体験をする。

第2次（14時間、本時7/28）
体の不自由な人たちにとって寒江はくらしやすいか、予想して調べよう
 ・体験したことを基に、気付いたことや考えたことを話し合う。
 ・自分たちの周りが、体の不自由な人にとって暮らしやすいかを予想し、予想を検証するための課題を見つける
 ・自分の課題を基に、どんな「工夫」がなされているかを調べる。

呉羽小との交流学习

第3次（8時間）
自分たちの町のバリアフリーについて考えたことを発表しよう
 ・調べたことをまとめて、呉羽小の友達がわかりやすいように、まとめて発表する。
 ・話し合いを通して、バリアフリーな社会に対する自分の考えを見付ける。

【評価の規準】

()内は評価の観点領域

・体の不自由な人のくらしを体験を通して実感し、感じたことをまとめる。(課題設定)

・自分たちのくらしのバリアフリーの進み具合について課題を見付ける。(課題設定)
 ・適切な情報手段を工夫し、課題を解決するための情報を取材やインタビューによって収集する。(問題解決)
 ・集めた情報の中から、自分に必要な情報を整理している。(情報活用)

・写真、資料など、自分の集めた資料を基に、考えたことを整理し、他校の友達に伝えるために、方法を工夫してまとめる。(表現)
 ・自分たちの身の回りを、体の不自由な人々にとってくらしやすくするために、どんなことができるかを考える。(自己を振り返る)

(3) 適切な手段を活用して、効果的に学習を進めるための支援

学習の過程では、学校図書館、インターネット、取材活動など、いくつかの方法の中から、各自がそれぞれに適切な方法を選択して調べ学習を進めた。学校図書館司書と連携を図り、図書館での調べ学習に活用できるよう、関連する資料の準備を行った。インターネットの活用には、単元に関係するリンク集を準備することによって、資料から自分の考えを見付ける時間が確保できるよう配慮する。また、取材による情報収集を行うよう働きかけるなど、自分たちの調べ学習がより現実的なものとなるよう支援を行った。また、ホームページにまとめる際にはひな形を用意し、文字修飾などの見た目の表現よりも内容を重視した表現ができるようにした。



司書が準備した市町村毎に整理されたパンフレット

(4) 子供の追究の道筋を明らかにするための評価規準表の活用

毎時間毎に自己評価カードを活用し、子供一人一人が、どのような意識を持ちどのように学習を進めているかを振り返ることができるようにした。また、単元全体を見通した教師の評価カードを活用した。単元全体の評価規準をあらかじめ洗い出して一覧にすると同時に、各時間毎に中心となる評価項目を決めて、一人一人のあゆみをできる限り把握し、次の学習活動に生かしていくように努めた。

寒江のここがじまん・富山のここがじまん 評価規準表 (第1次・1時)

実態(課題設定の傾向)	課題設定	課題解決
課題を見付けようとする傾向が強い。課題設定の目的意識が明確で、課題設定の工夫がなされている。	高原小の人たちに知らせる富山や寒江の自慢は何かを考えることができる。	自分が紹介しようとする富山や寒江の自慢について、調べたことめを見通しをもつことができる。

(5) 実践を通して明らかになったこと

- ・リンク集の準備や、Web作成の際のテンプレートの活用など、調べ方やまとめ方の手段にある程度の制約をかけることによって、内容を重視した表現活動に取り組むことができる。
- ・単元の評価規準を明確にし、1時間に1つの項目で子供を観察・評価することによって、子供の学習の歩みをとらえ、適切な支援を行うことができる。